



せい しん つう しん 聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 阿部益太郎

第9号 2019年11月30日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号
URL <http://www.spr-sacred-heart.ed.jp>

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)
FAX 011-612-0980

12月21日(土)、本校体育館でクリスマスコンサートを行います。お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。皆様と一緒に主のご降誕をお祝いできれば幸いです。

Congratulations!!

第65回青少年読書感想文全道コンクール

優秀賞 高2-S 児玉 優子さん
優良賞 高2-S 豊嶋 紅安さん

梅干し弁当募金

11月20日(水)に行われた梅干し弁当募金では、**総額 40,973 円**を寄付していただきました。フィリピンの子供たちへ「おにぎりアクション」給食170食分としてチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付いたします。ご協力ありがとうございました。

Christmas Concert 2019

クリスマスコンサート



2019年
12月21日(土) 10:15 開場 / 10:30 開演
札幌聖心女子学院 中学校・高等学校

原画デザイン：高1-G 山岡 詩恵さん

12月の行事予定



	行 事	お弁当
1(日)		
2(月)		要
3(火)	全校朝礼 母の会聖書サークル(10:30～、Sr.田口)	要
4(水)	課題研究ミーティング⑧	要
5(木)	中学朝礼(歌練習) インターナショナルデイ(交流会7校時)	要
6(金)	高3 家庭学習(～12/7) 高校朝礼(歌練習) 母の会パン販売(16:10～)	要
7(土)	高1・高2 GTEC NY国連研修事前学習(午後)	※
8(日)		
9(月)	個人成績表手渡し(朝SHR)	要
10(火)	全校朝礼(歌練習) 漢字コンテスト②(1校時)	要
11(水)		要
12(木)	中学朝礼(歌練習)	要
13(金)	高校朝礼(歌練習) クリスマスコンサート練習(5～7校時)	要
14(土)	3校時後「しずけき」歌練習 クリスマスコンサートリハーサル(午後、関係者のみ) 父の会聖書サークル(16:00～17:30)	※
15(日)	寄宿クリスマス会	
16(月)	クリスマスコンサート練習(5～7校時)	要
17(火)	全校朝礼(歌練習) 母の会聖書サークル(10:30～、Sr.井出)	要
18(水)		要
19(木)	中学朝礼(歌練習) クリスマスコンサート練習(5～7校時)	要
20(金)	総練習 校内クリスマスコンサート	要
21(土)	クリスマスコンサート公開日 学校説明会、ミニバザー NY国連研修保護者会(13:45～) コーラス部・オーケストラ部 「森の音楽会 お・と・の・わクリスマスコンサート」参加	※
22(日)		
23(月)		要
24(火)	終業日・帰省日	※
25(水)	うるかむはうすボランティア	
26(木)		
27(金)		
28(土)		
29(日)	学校閉鎖(～1/3)	
30(月)		
31(火)		

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

人間関係ミーティング

報道の世界だけではない問題の捉え方～拉致問題から考える～

11月6日（水）の人間関係ミーティングは、本校38回卒業生で内閣官房拉致問題対策本部事務局参事官補佐の菅野奈穂さんにお話をうかがいました。社会の諸問題についてテレビや新聞からの情報だけでなく、多方面から捉えるという大切な気づきを与えてくださいました。また拉致された横田めぐみさんを描いたアニメ「めぐみ」のことや自分が札幌聖心の6年間で学んだことを社会でどう生かしてきたかなど、貴重なお話を伺うことができました。



「おお、主よ、すべてのいのちを守るため、よりよい未来をひらくため、あなたの力と光でわたしたちをとらえてください。」

フランシスコ教皇

今月の聖句 「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。

その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか」ルカ福音書 12章 49節

240年前の12月12日、火事の晩に生まれた創立者聖マグダレナ・ソフィアは、いつもこの聖句を引用して、「私は火の中で生まれました。すべてのいのちに愛を注ぐイエスのみこころの火のような熱い想いを分かち合い、伝えましょう。」と語られました。

「シスター、お帰りなさい。教皇様のごミサどうでしたか。」と生徒たちに問われて、ふと思い浮かんだのがこの聖句でした。

教皇ミサでは7つの言語による朗読や祈りが記されたしおりや、諸宗教の方々、とくに多くの仏教関係の皆様が招かれていることに、「共生と対話」を目指す日本のカトリック教会の想いが感じられました。

やがて、大きな歓声のうちに、誰もが引き込まれる笑顔で教皇様が入場され、幼子たちを祝福するそのお姿に、すべての人に開かれている神のみこころの大きさを感じ、心が高鳴る思いでした。その高揚感はミサの中での、一言ずつ絞り出すように語られるお言葉に、不思議と澄み切ったものになっていきました。わずか3日半の間に、休む間もなく広島、長崎、東京と過酷とも言えるスケジュールをこなし、当日夜も重要な会見を控えて、お疲れも相当であった高齢の教皇様の、火のような想いが熱く伝わってきたのです。

その想いがあればこそ、2015年6月に回勅「ラウダト・シ」によって「私たちの共通の家地球とそこに住むすべてのいのちを守るために責任を果たそう」と呼びかけ、同年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)、同年12月の「気候変動に関するパリ会議」採択に影響を及ぼされました。そして、被爆地で、「核兵器を使うのは犯罪です。」「真の平和は非武装の平和以外にあり得ない」と明言されました。

欲にかられ、分かち合いや対話を忘れ、攻撃と略奪によっていのちを脅かし、破壊する動きが創り出す悪循環。その中で、踏みこまれ、置き去りにされている人々や、汚染され、荒廃する自然のいのちのむごい状況から、ともすると目を背けてしまいがちな世界に、そして私たちに、火を投じた呼びかけ。火は私たちをあたため、けがれをきよめ、かたい心を和らげ、荒れた心を整え、自分の力・責任に気づかせます。それに応えて、ささやかでも一歩踏み出す時に、心は平和に満たされます。

クリスマスは地上に「火が投じられた」日でもあったのです。それを忘れずに、待降節の準備であるブラクティスの期間を過ごせますように。

[チャプレン Sr.田口保子]